が最初である。明治初年になつてから米國から度々種子が輸入されたが，餘り栽培されるに至らず，今日の如く北海道や東北地方，信州の冷涼地で *C. moschata* に代つて廣く栽培される樣になつたのは30—40年來の事である。

○中米山地の植物（原　　寛）

熱帶に位置する中央アメリカの植物と云へば，一寸東亞の植物とは緣遠いものゝ樣に感じられる。成程種といふ樣な觀點から見れば中米と東亞とに共通なものは極めて僅であるが，少し視野を廣くして近緣の種や屬という點から眺めると意外に近いものがある。

最近中米のフロラは非常に調査が進んでその全貌が明かになり，山地には暖帶或は溫帶的要素が多い事が分つて來た。次に擧げる樣な我々にも馴染深い屬が中米の山地にある。*Pinus, Abies, Juniperus, Quercus, Ilex, Prunus, Alnus, Ostrya, Sambucus, Magnolia, Rhus, Carpinus, Liquidamber, Berchemia, Buddleia, Vaccinium, Arctostaphyllos, Potentilla, Geranium, Lupinus, Draba, Arenaria, Luzula, Festuca, Muehlenbergia, Trisetum, etc.* この中で *Quercus* の如きは數百もの種類が知られ，*Pinus* も 2000 m 以上の高地に於ける針葉樹の主體をなして居る。

特にメキシコ中部東側の San Louis Potosi から Veracruz 南部にかけての東斜面，東南部の Chiapas 中央高地及びグワテマラの Cuchumatanes 臺地には北米東部と共通のものが可成りあつて，しかもそれ等は中間の地帶で切れて所謂隔離分布をなして居る事が指摘されて居る。一方北米東部と東亞の植物が極めて關係の深い事は A. Gray 以來多くの學者により認められて居る處である。從つて中米山地の植物は東亞のものと近緣のものがある事は當然考へられる。中米の高地にはヤマドリゼンマイ，ヒカゲノカヅラ，アスヒカヅラ，アメリカハナズワウ，アメリカツタウルシ，アメリカヅタ，アメリカヤマボウシ，アメリカツルアリドホシ等を產し，これ等は一度切れて更に北米の東部に分布して居り，しかも東亞に關係のある種類である。

更に最も興味のある事實はヤツコサウ屬（*Mitrastemon*）の分布である。初めは日本列島南部の特產と思はれたこの珍稀な植物も其後スマトラ北部，印度支那カンボヂヤで發見され，昭和9年には遙かに太平洋を越えて全く豫想されなかつたメキシコ東南部に見出された。そうしてその發見が奇しくも松田英二氏によつてなされた事は一層愉快に感じたものである。又 1946 年には Standley 博士がグワテマラ中央の Altaverapaz の山地で同一物を採集した事を報告して居る。松田氏は Bull. Torrey Bot. Club 74: 133—141, fig 1—11 (1947) でこのものに就て詳しい記述をなし，Chiapas 南部の Mt. Ovando の *Quercus* 帶海拔 1700 m の地點に2月から4月の乾期に *Q. boqueronae* の根に寄生して多數發生するといふ。

中米も植物の系統や地史的植物地理の問題を考へる上には無視する事ができない地域である。